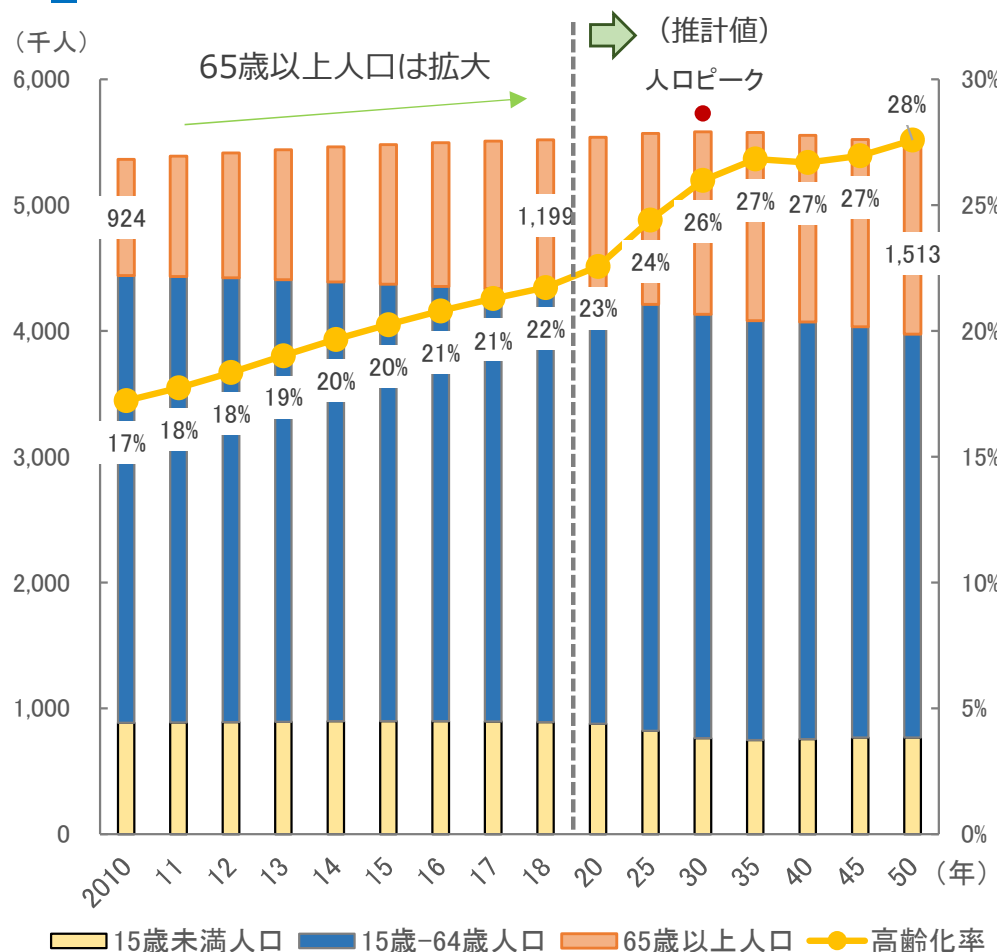


フィンランドの介護市場の現状（1/3）

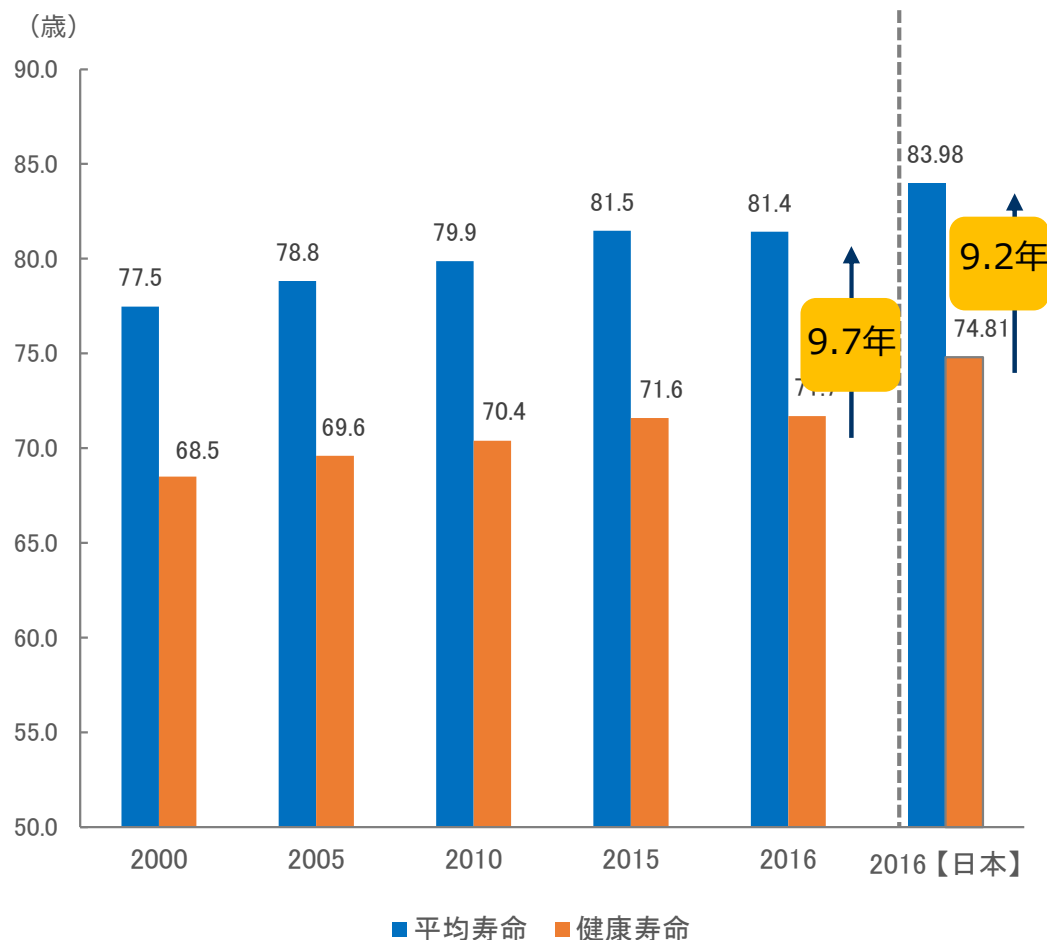
フィンランドの人口は2030年をピークに緩やかな減少に転じている。2016年に高齢化率は21%を超え、超高齢化社会に突入している。

平均寿命及び健康寿命は共に伸長しており、その差（平均寿命－健康寿命）は、2016年時点で9.7年となっている。

人口構造・高齢化率



平均寿命と健康寿命の推移

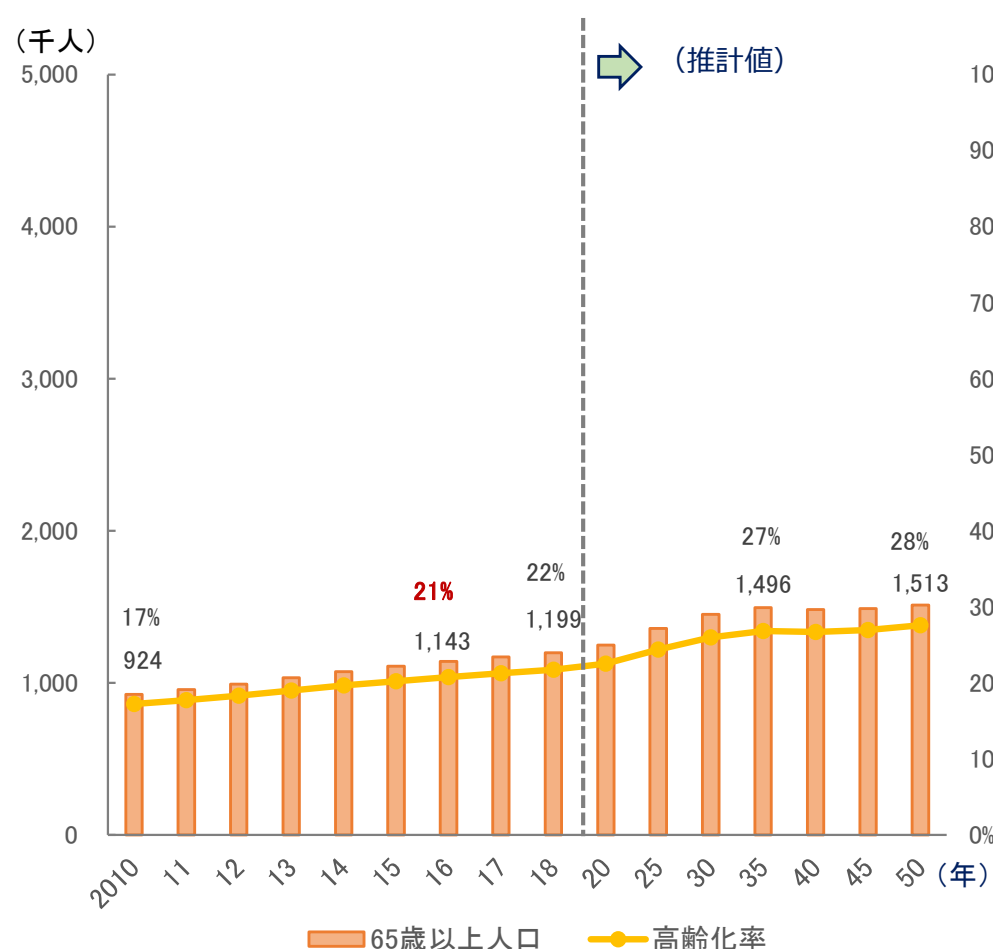


フィンランドの介護市場の現状（2/3）

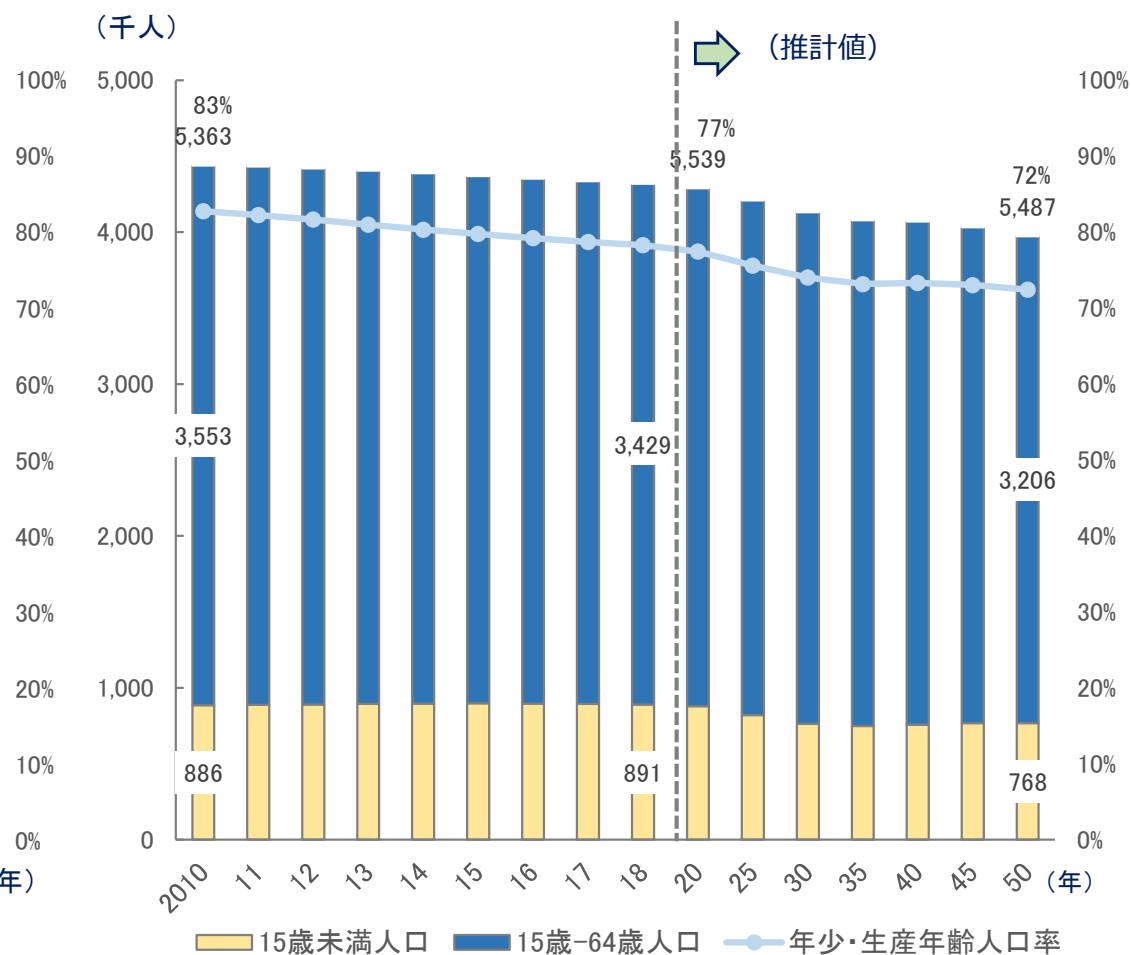
高齢者人口（65歳以上）は、高齢化率が21%を超えた2016年時点で約114万人となっている。

一方で、年少・労働者の人口は緩やかな減少傾向にあり、2050年の年少・生産年齢人口は約70%の見込みである。

高齢者人口（65歳以上）



年少・生産年齢人口(15歳未満、15～64歳)

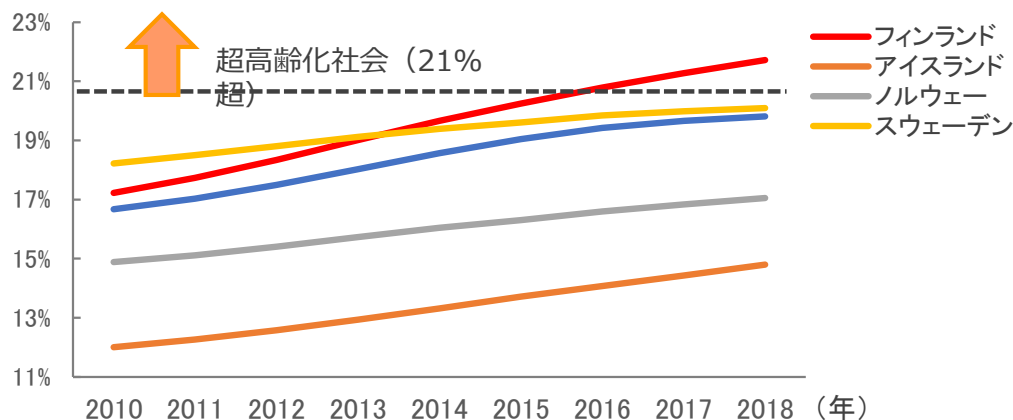


フィンランドの介護市場の現状（3/3）

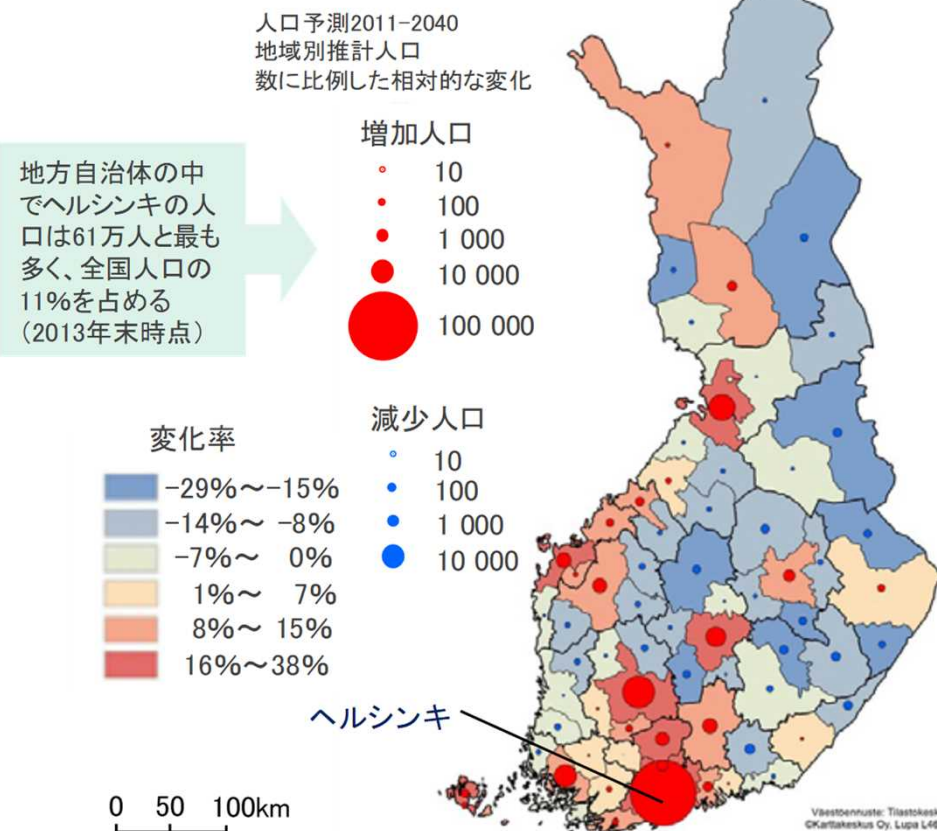
フィンランドは北欧諸国の中で最も高齢化が進行し、いち早く超高齢化社会に突入した国である。日本には及ばないものの、EU内では高齢化率が高い国であり、2025年にはほぼ4人に1人が高齢者となる見込みである。

日本と同様に農村から中核都市（ヘルシンキ及び他の主要都市部）へと人口が集中している。

北欧諸国の高齢化率の推移



人口分布



フィンランドの高齢者（65歳以上）人口

